

Ⅱ 実践研究の実際

1. 実践研究の実施経過

- 平成 27 年 4 月 本年度の実施計画の検討
- 5 月 生徒事前意識調査の実施（全学年）
- 6 月 生徒事前意識調査の分析（全学年）
- 7 月 社会参画推進委員会メンバーの検討
外部団体への概要説明の渉外
- 8 月 教員研修の実施
研究会参加（滋賀大学教育学部附属中学校）
- 9 月 社会参画推進委員会の実施
- 11 月 年間活動の評価（全学年）
- 12 月 生徒事後意識調査の実施（全学年）
生徒事後意識調査の分析（全学年）
1 年次活動内容の成果と課題の検討
- 1 月 事業報告書の作成
- 2 月 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定研究協議会【総合的な学習の時間】参加（文部科学省国立教育政策研究所）
研究会参加（関西大学初等部）
社会参画推進委員会の実施
次年度の計画
- 平成 28 年 4 月 本年度の実施計画の検討
- 5 月 生徒事前意識調査の実施（1 学年）
- 6 月 生徒事前意識調査の分析（1 学年）
社会参画推進委員会の実施
- 10 月 総合的な学習の時間学習発表会の開催
社会参画推進委員会の実施
- 11 月 年間活動の評価（全学年）
- 12 月 生徒事後意識調査の実施（全学年）
生徒事後意識調査の分析（全学年）
校内授業研究会の実施
- 1 月 1 年次活動内容の成果と課題の検討
- 2 月 次年度の総合的な学習の時間の計画の検討
教員研修の実施
事業報告書の作成
- 3 月 社会参画推進委員会の実施

2. 実践研究の実施体制

本実践研究の実施にあたり、昨年度より社会参画推進委員会を組織した。委員会の委員は、これまで本附属中学校の総合的な学習の時間の活動に様々な立場から協力いただいている NPO 法人，行政機関から選出した。各団体は次のとおりである。

島根県教育センター，島根大学である。

NPO 法人松江ツーリズム研究会は，松江市への観光客誘致を通して地域の活性化，市の観光振興に寄与することを目的としたNPO法人であり，松江城や小泉八雲記念館などの指定管理事業などを行っている。本校3年生が取り組む「観光」分野での支援をいただいている。

認定NPO法人自然再生センターは，中海・宍道湖における自然の保全や再生を目的に中海自然再生会議の運営や環境モニタリング等を行っている。本校3年生が取り組む「環境」分野での支援をいただいている。

松江市産業観光部では，2年生の職場体験にかかわることから3年生の「生活」「環境」「観光」など幅広い分野での支援をいただいている。

島根県教育センターからは，総合的な学習の時間に係る指導や助言を，島根大学からは附属中としての地域貢献についての助言を得ている。

社会参画推進委員会では，本校3学年の取り組みについて重点的に助言をいただいている。3年生では，「生活」「ものづくり」「環境」「観光」「教育」「福祉」の6つのテーマに分かれ，課題解決に向けた取組を行っており，より地域に貢献できる取組に高めていきたいと考えた。

実際の委員会では次のような意見をいただいた。

- ・3年生のテーマ設定について，単に環境についての追求だけでなく，テーマを貫くことが大切。例えば，環境と食料，観光3つのテーマを結びつけて考えるなど，横のつながりをもつこと。縦割りだけだと行き詰まる。
- ・取り組むことが，地域にどう生きるか，誰が喜ぶか，どう横につながっていくかを考えて欲しい。例えば，宍道湖のゴミをアートにする。環境と物づくりが結びつく。また，ハザードマップと福祉を結びつけるなどの工夫も考えられる。
- ・住みたいまちの視点に，歴史や文化も含めてつないでいってみてはどうか。例えば，農地一つをとってみても，時代を超えて受け継がれている。これをどう守っていくかも，課題となる。同時につなぐことの意義も考えることができる。
- ・自分たちが取り組んでいることが，結果として他のテーマの成果に結びついたという実感が伴うと良いのではないか。
- ・アウトプットをして，アウトカム，何を得たいのかを明確にし，それを目標にしていくことが必要ではないか。福祉施設で音楽を演奏することが目標にはならない。音楽を演奏することで相手がどう思うか，感じるか，これがアウトカムである。住みたい町のどの部分に結びついていくのか，見通しをもつことが必要である。

以上は，いただいた意見の一部であるが，各分野に教員一人が担当というスタイルでこれまで取り組みを進めてきており，他の分野の取り組みと関連づけるといった視点を新たにもつことができた。

3. 実践研究の評価等

(1) 各教科等との関係の整理

- ① 教科横断的な思考のために必要となる資質や能力や各教科等との関係を整理する。

- ・職員会や教科部会を開き，各教科で総合的な学習の時間に向けて育む力，総合的な学習の時間で付けた力をどのように教科で生かせるかなど明確にし，分類，整理する。

(2) カリキュラムの系統性と検証

- ① 3年間を通したカリキュラムをどう位置付けて，その中でどんな資質や能力を育てたいかを整理する。

(3) 評価について

- ① 総合的な学習の時間の目標や内容に従った評価の観点を設定する。
- ② いつ，どのような方法で評価作業を行うのかを明確にする。